越谷町広報

発行所
埼玉県南埼玉郡
越谷町役場企画室
電話越谷42番・366番

迎春特集号

新越谷町長決る

初代町長は大塚伴鹿氏

当地区町村合併成立後の、人口四万四千余人という大世帯の町制施行の初の町長選挙は、師走のあわただしい十二月十九日の日曜日、管内を二十六投票区に分けた各投票所において一せいに行われ、前町長大塚伴鹿候補と元町長石川正候補の二候補によつて町長の椅子が争われましたが、別掲の如き全有権者二三、九〇五人のうち、その六八・三七パーセントの投票率を示した一六、三四四名が投票を行つた結果、次の得票数をもつて大塚氏が新町長に当選されました（**寫真は町長に当選の大塚氏**）

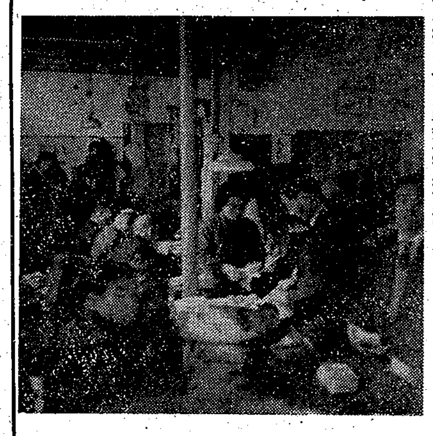
當選　九、九七五票　大塚伴鹿
次点　六、二三五票　石川正
無效　一三五票

新町長の略歴

大正四年生れ本年三九才、大東文化学院高等科卒業後文部事務官、中大講師、富士短期大学助教授を経て二十三年に越ケ谷町長当選、二十六年同当選、越ケ谷地区農委会長、南埼玉郡農委協議会副会長等を歴任、二十九年十一月三日合併により町長職務執行者となり同月八日立候補のため辞職、今回初代町長に当選、家庭には幸子夫人との間に長男、長女がある

開票、本廳舎で施行

越谷町長選の開票は、晴天にめぐまれしかも町民注視のうちに午前八時より本廳舎において、浜野選挙管理委員長の開票開始宣言によつてはじまり、役場職員がそれぞれ分担事務を行い、厳粛に開票が行われました、開票立会人および選挙管理委員の厳密な点検を得て午後二時三〇分、浜野選挙管理委員長の当選確定宣言があつて一切を終了しました、開票所には参観人が多数つめかけ大越谷町初代の町長選挙らしい風景でありました



（寫真は開票風景）

投票所一番のり

（上から数字は投票区、カツコ内の投票所、一番乗りの方）

▼一（大字下間久里農協倉庫）五の上市太郎▼二（大字大泊慈眼寺）小早川喜一▼三（大字平方崇源寺）中村勘一▼四（新方公民館）石田きい▼五（大字大吉徳藏寺）松沢新一郎▼六（増林支所）黒田勇治▼七（大字増森社務所）富沢和夫▼八（大字東小林東福寺）山口憲正▼九（大袋支所）井上貢三郎▼一〇（大字三野宮一乗院）福田新右衞門▼一一（大字大房浄光寺）黒田磯右衞門▼一二（荻島小学校）大塚勝太郎▼一三（大字小曾川集荷所）中島敏春▼一四（大字西新井西教院）高橋そめ▼一五（出羽支所）植竹林藏▼一六（出羽小学校）会田農作▼一七（大字蒲生小沢精粉所）金子爲彦▼一八（蒲生公民館）大熊喜太郎▼一九（大字瓦曾根照蓮院）今井源太郎▼二〇（大字西方大聖寺）鈴木長次郎▼二一（大相模支所）中村とよ▼二二（大字別府金剛寺）豊田義雄▼二三（越ケ谷小学校）木村清治▼二四（同）福井喜一郎▼二五（大沢小学校）本田龜之助▼二六（同）佐々木条吉

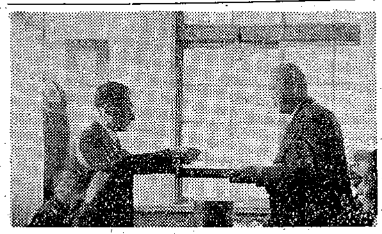
以上のうち、五の上さん、黒田さん、植竹さん、今井さん、木村さん、本田さん、女性組では石田さんの方々は、三、四年一番のりの記録保持者だそうです

各区の投票状況

投票区	投票所	選挙当日の有権者 男	女	計	投票をした者 男	女	計	投票率% 計
1	下間久里農協	328	362	690	250	227	477	69.13
2	大泊慈眼寺	249	279	528	195	156	351	66.48
3	平方崇源寺	241	226	467	171	96	267	57.17
4	新方公民館	426	420	846	333	272	605	71.51
5	大吉徳蔵寺	249	270	519	208	212	420	80.92
6	増林支所	528	594	1,122	398	308	706	62.92
7	増森社務所	400	419	819	310	258	568	69.35
8	東福寺	289	329	618	221	198	419	67.80
9	大袋支所	448	470	918	325	251	576	62.75
10	三野宮一乗院	291	308	599	196	141	337	56.26
11	大房浄光寺	233	219	452	177	174	351	77.65
12	荻島小学校	316	330	646	236	233	469	72.60
13	小曾川集荷所	250	264	514	198	185	383	74.51
14	西教院	308	308	616	265	239	504	81.82
15	出羽支所	545	575	1.120	409	399	808	72.14
16	出羽小学校	470	505	975	339	300	639	65.54
17	小沢精粉所	666	672	1,338	533	470	1,003	74.96
18	蒲生公民館	258	265	523	204	200	404	77.25
19	照蓮院	264	297	561	209	241	450	80.21
20	大聖寺	411	430	841	323	291	614	73.01
21	大相模支所	350	369	719	270	244	514	71.49
22	金剛寺	273	289	562	184	170	354	62.99
23	越ケ谷小学校	1,230	1,221	2,451	859	874	1,733	70.71
24	越ケ谷小学校	1,020	1,115	2,135	794	768	1,562	73.16
25	大沢小学校	960	1,090	2,050	602	577	1,179	57.51
26	大沢小学校	615	661	1.276	328	323	651	51,02
総計		11,618	12,287	23,905	8,537	7,807	16,344	68.37

町長當選の證書授與式 廿一日企畫室で擧行さる

両助役、全課長立席の下に



町村合併成立による新越谷町の初の町長選挙は去る十九日執行され別掲の如き投票結果により前町長大塚伴鹿氏が栄の当選と決定しましたが、町長当選の証書授與式は二十一日午後三時から、本廳舎企画室において両助役、全課長、全選挙管理委員会委員出席のもとに挙行されました

まず式は池ノ谷助役のお祝いの挨拶に始まり、浜野選挙管理委員長から大塚氏に町長当選の証書が授與され新町長大塚氏の喜びにおふれた就任の挨拶があり終つて一同冷酒をあげて新町長の前途を祝し、いろいろと懇談があり会田助役の閉会の言葉により厳粛なうちに新町長の当選証書授與式は同四時とどこおりなく終りました

なお、新町長は二十四日に初登廳し、職員に対する訓示は勤務の関係上各分室等の各職場毎で行われました

（写眞は授與式）

投票率は86%

縣下一の越谷町初代町長選挙は、十九日午前七時より午後六時まで二十六投票所で行われ、投票成績は男八千五百三十七、女七千八百七、計一万六千三百四十四で投票率は六八・三七%だつた

公明選擧の推進 宣伝カー活躍 棄権防止を宣傳

（第四投票所における投票風景）

越谷町選挙管理委員会では、去る十九日の町長選挙にあたり清く、正しい、明るい一票を、自己の責任において行使していただくため棄権防止班を組織して、十五日、十八日、更に投票当日の十九日、町内くまなく宣傳カーを使用、巡回いたしました

（寫真は棄権防止班）

越谷鴨場へ 高松宮両殿下

快晴の二十二日、高松宮同妃両殿下にはイギリス、オランダ、ドイツ、パキスタン、ペルー、ローマ法王廳の六カ国の大公使や随員の方々を、宮内廳越谷カモ場にご招待して本年初のカモ猟を催されました、デニング・イギリス大使、ロイヒリン・オランダ大使を始め随員の方もいずれも夫人同伴でご来場、先着の高松宮さまとご挨拶を交され、十一時から小谷場長のご案内でカモ猟を行いましたが、折悪しく無風状態のため獲物は思うように得られませんでした

係員の演ずるカモ猟の方法や、歴匠羽織にキャハン姿の往時のカモ猟姿に好奇の目をみはり、猟場でもサデ網をつかつた昔ながらの猟法にワンダフルを連発、おとりのアヒルすくい上げなどに興じ、午後二時頃帰京されました

新年を迎えて

越谷町長　大塚伴鹿

こゝに昭和三十年の初春を迎えまして、町民の皆様と共に心から新生越谷町の將來を祝福いたしたいと存じます、いつも新しい年を迎えるごとに、過ぎ去りし年への深い反省と新しい年への限りなき希望にその決意を新らたにしてまいりましたが、今日わが国社会の状勢を静観いたしまして、いよいよ本年こそはの感を深くせざるを得ないのでございます

ご承知の通り新生越谷町は二町八カ村の大同團結であり、全国稀なる大きな町として発足いたしました、この大きな町をいかにして皆様の期待に添うよう建設するかは吾々当事者の大きな責任であり、その前途は洋々たるものがあるといわねばなりません

ひるがえつて国内の状勢は経済自立達成、経済再建、あるいは民生の安定等をはかり、民族の復興を期さなければならない秋であり、特に昨年の農作は度重なる台風の影響により予想外の減収を来し、更にデフレ政策による農産物價の低落等、農家の経済は容易でなかつたことは御存知の通りであります

こうした実情に堪えて、更に前途に横たわる幾多の困難を乗り越えて祖国の再建を推進してゆくためには、国民一人々々に時局に対する透徹した自覚と、個人の利害をこえた建設的な努力と協力を必要とすることは申すまでもないところであります

町においても、本年は財政の確立を第一の目途とし、四月以降新町建設計画を着実に、しかも住民の福祉のため、漸進的に一歩一歩推進し、河川道路、交通の整備、市街地と農村部の間を調整し統合して農村の振興策並びに、商工中小企業の振興策等を樹立して新町の発展をはかり冗費節減、その他当面する諸問題を解決して町民所得の増加と負担軽減、更に民生の安定を期し、明るい住みよい郷土越谷町の実現の為懸命の努力をいたしたいと思います

只今さし当り皆様に何かと御不便をかけております分室事務も、何とか解決すべく新廳舎建設も議会に諮り早急に実現したい考えでおります、私は去る十九日の選挙に当り町民の皆様の絶大なる御支援により、当選の栄を得まして責任の重且大であることを痛感し、皆さんの御期待に添うよう誠心誠意の努力、奉仕をこの佳き日元旦にあたり捧げたいものと期しております

町民の皆様におかれましても ますます御健勝に、それぞれの職場を通じ郷土越谷のため、ひいては祖国再建のため、この上とも御精進下され、更に不肖私を陰に陽に御鞭撻下さいますよう切に御願いいたしまして、年頭の御あいさつといたします

廿八日御用納め 五日から執務

役場事務の年末年始の取扱い

恒例の通り役場の事務は二十八日にご用納めをし、正月四日は初職員の顔合せ、五日仕事始めとなりますので、事務取扱いは二十八日から一月四日までの八日間休ませていただきますのでご諒承下さい、なお税務等の徴収事務のみ三十日まで行います

▽役場人事異動△

命企画室長兼務（十二月廿四日付）　助役　会田傳兵衞
命税務課勤務（十二月十五日付）　浅子参内（旧第三地区農業委員会書記）

麦ふみは强目に 農業氣象のおしらせ

先月の前半は著るしい高温がつづいたので、平均氣温は七・一度を示し平年より二、三度も高くなつております、このため麦は徒長するおそれがありますので麦踏みを行つて、のびすぎないように致しましよう、とくに春播性の高い麦や早まきしたものは强目に行い、しかしおそまきして余り生育の進まない麦や、裏作で圃場の濕りすぎている場所などは踏まない方がよいと思います、向う一月間の天氣は廿日ごろ一時くずれ、雨があるかも知れませんが、その他は大体好天の見込みでありますので、氣温も低目になりましよう、以上は玉井農事試験場の発表

昭和三十年の新春を壽ぎ奉ります

越谷町役場
町長　大塚伴鹿
助役　池ノ谷与一郎
同　会田伝兵衛
収入役　浅見英蔵
ほか職員一同

越谷町議会
議長　藤田岩太郎
副議長　高橋平蔵

後藤元一　岡井晁四郎
須賀末吉　中村六右衛門
須賀孝專次　中村三郎右衛門
飯島右内　大野寛人
桐山馨　加藤龜一郎
坂巻徳太郎　神谷增五郎
須賀喜悦　武藤栄吉
鈴木吉五郎　大貫亥藏
栗原平吉　江川太郎

小早川海治　佐藤辰之助
島村斌　石川龍藏
堀井眞一郎　本橋茂一
鈴木有常　黒田初太郎
矢部道之助　宇田川清造
小倉初治　佐々木三郎
小船吉造　下田豊治
城処幸三郎　吉沢春吉
大熊倉之助　瀬尾三郎
鈴木正雄　小川長五郎
堀井平次　浜野熊次郎
斎藤新六　松沢喜重
赤沼啓三郎　石垣祐次郎
浅見寅之助　三ツ木富藏
鈴木新助　吉田要藏
中野門之助　中村眠郎
鋪野儀右衛門　野口吉太郎
小川安太郎　大友定助
榎本市松　向佐祐四郎
栗原文藏　名倉豊藏

木下半助　榎本豊次
谷塚雄一　神谷英一
近藤松次郎　小林要
小沢吉次郎　中村彦太郎
中村喜四郎　今井善吉
井上長次郎　根岸勇四郎
浜野宗治　金子春吉
山崎幸七　松崎柳之助
立沢清次　藤田久一
鈴木忠右衛門　内田喜右衛門
岡安忠藏　吉岡信儀

新年を迎え、みんなが生活の切替を……
収入の一割は、貯蓄いたしましよう

平順之助　高橋清一
関根市郎　斎藤健藏
須川市太郎　浅見芳郎
金子佐五八　中村裕彦
森迪　木村一大郎
矢部保次　山崎喜久治
田川群二郎　永野保次
岩瀬時松　藤井保吉
宇田和次郎　滝田ツ子ヨ
長野益一　森泉清左衛門
澁谷九右衛門　会田宗太郎

深井彌三郎　駒崎権兵衛
中野領一　小林茂一郎
岡本和三郎　浜野隆治
浅子進一　杉岡隆太郎
井出門一　大野茂右衛門
植竹網吉　浜野宗市
岡崎治郎兵衛　浅子正一郎
高橋與一郎　浅子貞喜
深井清　川上順一
中村善太郎　渡辺房太郎
濱田正男　深井武藏
松崎駒次郎　会田仁太郎
島根貞之助　田村正男
鈴木吉右衛門　中村亥之輔
黒田富藏　遠藤吉重
長谷川昇英　萩原篤太郎
白鳥麗之助　中島安左衛門
石垣正平　渡辺渡
阿部鉄藏　中山傳吉
神田喜助　長本庄吉
降田清一郎　中島健司
大山繁雄　中島孫太郎
河上彦左衛門　会田善之助
三ツ木初五郎　須賀長太郎
木村俊久　川島有爲
鈴木與一　島村仁
森田三之助　中村貞一郎
吉野由次郎　石井慶

謹賀新春

第一地区農業委員会
会長 竹ノ内正雄
代理者 田熊秀吉
松永悦蔵
会田伊右衛門 笹田正己
川島惣三郎 根岸秀一郎
小林勝太郎 原田利夫
細沼森之助 中島利一
田村清次郎 三ツ木富蔵
松永房太郎 田村忠次
森田春男 平川賢之輔
小島部 横田正男
鈴木丑五郎 大塚伴鹿
町田菊吉 櫻井重蔵
川上茂左衛門 黒須章治
小船吉造 鋪野儀右衛門
野口痛助 堀井信吉
野口正次 松沢利治
大野義一 高橋平蔵
増田俊雄 白鳥鹿之助

第二地区農業委員会
会長 高崎三郎
代理者 木村安之助
須賀義正 臼倉眞一
内田喜右衛門 鈴木兼蔵
栗原重治 大武治
坂巻惣助 福田新右衛門
向佐福一郎 浪井常吉
中島政 中島猪次郎
中村眞一 荻野酉之助
瀬尾哲太郎 中島健司
小林茂一郎 深野淳一
中山傳吉 小倉初治
松崎福太郎 宇田川程良
森泉忠良 大野寛示
小早川清 新井勘三郎
宇田川金五郎 川口新太郎
後藤元一 新井長蔵
瀬尾昇 小川温
白鳥勘一

第三地区農業委員会
会長 須賀定吉
代理者 染谷穐一
榎本市松
宮川茂 平野惣之助
内野清右衛門 井上竹松
山崎勝信 宮川類重
今井元吉 林専次郎
江原忠蔵 尾川弥之助
須賀幸太郎 山口豊一郎
栁岡新作 黒田正清
山口権太郎 中島與兵衛
染谷栄 瀬尾順三老
渡辺房太郎 森田一之助
石渡勘次郎 永野正止
高崎豊吉 染谷孝太郎
小林勝之助 浜野武夫
神田精志 浅子信治郎
松沢幸一郎 中村彦太郎
加藤清一 岡井格四郎

第四地区農業委員会
会長 藤井恒敬
代理者 駒崎權兵衛
宇田新太郎 吉田富士吉
石垣福次郎 小沢佐市
只倉巖 中村平吾
野口茂太郎 秋山長壽
鈴木康一郎 高崎良吾
只倉寅吉 斎藤敬蔵
深井栄次郎 浅見要
池ノ谷平作 中村市之助
篠田瀧太郎 中野常吉
清村藤次 秋山藤一郎
中野健蔵 八木下金次
高山勘一 金子喜代三
横川市太郎 遊馬省吾
中野菅次郎 山崎勝治
浅見甲子男 金子吉蔵
株竹誠一郎 岩淵福太郎
須賀物惠智 （外職員一同）

選挙管理委員会
委員長 浜野梅次郎
委員 染谷勇快 中里順道 永野新太郎 中野健藏
補充員 江原與之吉

教育委員会
委員長 井出門平
副委員長 瀬尾哲太郎
教育長 秋山長作
新井誠一郎 浅子信治郎
井上竹松 栗原茂
浅見金一郎 斎藤茂右衛門
関口馬次郎 浅野滋
飯島右内 外職員一同

越谷町消防団
荒井政太郎 加藤穐一郎
浜野淳一郎 瀬尾昇
須賀孝專次 宇田川八郎
中野保夫 野口茂太郎
田村正男 大貫亥蔵
外團員一同

民生委員
谷塚雄一 豊田栄次郎
植竹網吉 大熊六二郎
関根重造 吉田要蔵
森田光之助 加藤松子
中村金三郎 鈴木日出吉
藤井恒敬 黒田英三
山口庄蔵 内野徳太郎
山崎勝信 林専次郎
名倉豊蔵 鈴木忠右衛門
島田巖師 伊東ふみ
海老名松五郎 浜野武夫
浅子齊輔 森田汰三
中村祉三郎 関根くら
加藤喜右衛門 上原富之助
松崎武雄 深野淳一
石原龜之輔 川島定四郎
新坂愛吉 染谷勇快
田口一老路 原田利夫
坂巻徳太郎 大熊倉之輔
鈴木門造 堀井平次
松沢利治 斎藤政之進
白鳥鹿之助 中野丑蔵
竹ノ内正雄 増田俊雄
高橋喜一郎 中村彦太郎
岩瀬たけ 飯島よし
降田清一郎 吉川きく
榎本市松 関根しま
会田近 榎本智惠子
水田近蔵 荻野茂治
荒井新六 木原勝次郎
斎藤はな 染谷徳太郎
田口幸子 藤乗中
青木菊太郎 山本荘太郎
渡辺斧太郎

行政連絡委員
▼旧荻島
関根福蔵 川島有為
平野盛吉 小林善次郎
小川開助 細沼森之助
中島利一 島村仁
鈴木彌助 根岸万五郎
高橋柳三郎 新井省三
高橋清一 堀井安太郎
高橋源四郎 田村要吉

▼旧櫻井
中島長太郎 大熊清次郎
中村千代松 松崎駒次郎
小倉初治 関根彌惣次
中村作造 小川安太郎
大塚仙吉 森寅吉
森田宗平

▼旧蒲生
金子源之助 森田喜平
遊馬重晋 中野健藏
関根新之助 大熊健之助
金子仁三郎 植竹善次郎
早山己之助 岩淵謙四郎
金子庄吉 分家浅見金太郎
清水要之助

▼旧大沢
会田近 船川多市
浅野滋 鈴木熊蔵
池沢栄吉 岡井良平

▼旧大袋
村田貞治 武藤幸次郎
小林忠左 坂巻平三郎
福田新衛門 吉沢芳房
小林彌藤次 岩瀬重雄
中村眞一

▼旧越ケ谷
伊東左七 青木菊太郎
本銚直吉 石谷佐一郎
佐藤辰次 前田豊吉
会田嘉兵衛 渡辺渡
小林芳之助 大熊伊之助
高橋一男 水田近蔵
小宮久尙 大塚吉太郎
五十嵐長平 松村武平治
林五郎

▼旧新方
石渡晉吉 神田精志
岡安春一 永野金吉
山崎利雄 川上初蔵
染谷金蔵 黒田勝三郎

▼旧増林
関根多藏 百木八十八
山崎保 小島爲吉
豊田清左衛門 島根健壽
平野惣之助 坂巻文吉
小菅昭一 名倉藤徳
中村貫吉 森田盛平
林松五郎 須賀正治
会田守正 井上理助
榎本武蔵 黒田英三
須賀久次郎

▼旧大相模
島根己之藏 水野政之助
金塚清吉 石塚滿治
科山勝三郎 田村正藏
田代松次郎 石塚恒吉
高崎八郎 筋德藏
浅見眞一 谷塚通正
谷塚俊雄 宇田新太郎
只倉巖 豊田一郎
飯島正雄 鈴木源治郎
深井幾信 中村彌右衛門
立沢清次

▼旧出羽
中野丑藏 鋪野儀右衛門
名倉勇藏 堀井信吉
鈴木德重 松沢利治

税務協力員
長野壽光 佐藤辰之助
中村彌三郎 松崎駒次郎
中原実 松崎正男
大野寛示 小川安太郎
森助太郎 森丙八郎
宇田川斧太郎 新井勘三郎
高橋貞三 吉岡道太郎
上原兼太郎 小倉初治
石川基藏 加藤喜右門
森田宗平 関根彌惣治
小川寅松 中村作藏
森田龍富知 池ノ谷竹太郎
永野政之助 金塚清吉
沢田包次 石塚喜久造
林正一 中村彌右衛門
立沢清次 田代松次
石塚恒吉 高崎良吉
高橋勇吉 石垣健吉
中村好三 宇田光一
中村仲次郎 只倉巖
中村藤造 飯島正男
鈴木源次郎 深井幾信
永井正雄 中野久作
遊馬省吾 斎藤初五郎
株竹勝五郎 高山勘一
関根龜吉 浅見金一郎
浜野忠藏 駒崎權兵衛
岡田傳次郎 鈴木吉之助
清水要之助 村田貞治
木村眞澄 武藤幸次郎
向佐林之助 小林忠左
吉沢芳房 坂巻平三郎
向佐利雄 福田新右衛門
原田芳之丞 小林弥藤次
石原龜之輔 岩瀬重雄
原田庄助 中村眞一
黒田時藏 中島長三郎
平林次助 伊東佐七
本銚直吉 青木菊太郎
石谷佐一郎 佐藤辰次
前田豊吉 会田嘉兵衛
渡辺渡 大熊伊之助
小林芳之助 高橋一男
水田近藏 松村武平治
大塚惣一 小宮久尚
林五郎 五十嵐長平
豊田彦治 酒巻雅一
渡辺傳三郎 五十嵐馨
須賀千代松 今井健三郎
小菅住太郎 榎本助右衛門
須賀操 会田利三郎
江原幸次郎 鈴木晋吉
須賀文一 山崎源一
平野岩松 山崎福太郎
山崎保 関島新太郎
富沢留吉 森田清魚
山崎元次郎 林松五郎
浜野倉之助 須賀春吉
高野晃司 川島有爲
中島清藏 関根福藏
小林善次郎 平松盛吉
栗原茂 細沼森之助
会田科藏 中島利一
小川関助 豊田清一郎
島村仁 大熊栄之助
根岸万五郎 須賀德太郎
宮下重太郎 鈴木弥助
堀井安太郎 松永與悦
高橋柳三郎 市川辰三
高橋清一 高橋作之丞
新井省三 星野孝三郎
田村要吉 高橋徳太郎
高橋源四郎 原田利夫
中島長太郎 井上定吉
岩上良平 櫻井重藏
町田菊吉 櫻井茂
井出門一 吉田正次
松沢歌之助 鈴木清太郎
山崎次作 大塚経作
黒須章治 高橋平司
浜野末一 富永多喜治
井出藤七郎 竹内正雄
島村斌 白鳥仁藏
島根喜一郎 大塚寛司
塩野信次郎 山畳源伍
鈴木章雄 中川多四郎

国民健康保険運営協議会
岡崎芳藏 中村軍治
岡井良平 高橋泰藏
小山福太郎 石谷佐一郎
水田近藏 小宮久尚
青木菊太郎 田中金造
大熊伊之助 石川正
糸川公美 横田正男
桃木俊平 木下半助
神谷增五郎 渡辺斧太郎
吉野由次郎 染谷德太郎
鈴木平次郎 佐々木三郎
山口浩 大沢弘
村田貞治 武藤幸次郎
小林忠佐 吉沢芳房
坂巻平三郎 福田新右衛門
小林弥藤次 岩瀬重雄
中村眞一 深野作次郎
新井勘三郎 上原継次郎
那須松雄 杉浦貞
石川良悦 小川安太郎
中山傳吉 森迫
石井巖 小島爲吉
鈴木吉五郎 島根武雄
松沢誠一郎 宮里良雄
鈴木有常 井上竹松
中島與兵衛 須賀孝専次
黒田英三 小島森之助
小島仁平次 松永悦藏
松沢英治 山口芳文
赤沼啓三郎 堀井平次
岡本和三郎 本橋茂一
増田俊雄 宇田川清造
野口犀之 浜野釆一
山口尙平 大熊常吉
倉持光治 浜野利勝
鈴木源三郎 石川誠三
深井樹郎 中村市之助
深井弥三郎 豊田丑松
藤田健三 筋隆幸
戸張芳郎 戸張圭
藤井恒敬 浜野熊次郎
浅見眞之助 深井清
染谷仙之助 大貫亥藏
中村六右衛門 染谷孝太郎
飯島瑞雄 杉浦貞
小林政太郎 神田貞次郎
浅子長吉

国保直営病院診療所
医師 高橋敬夫 森繁
山口尚平 外職員一同

衛生協力員
伊東佐七ほか一同

教育委員會開かる
正副委員長、教育長決る

さきの初議会で議会選出教育委員が決つたので町教育委員会では、最初の教育委員会を去る十二日埼信連支所二階において開催し、正副委員長並びに教育長等の選出を行い左の諸氏が選任されました

▼委員長井出門平（旧出羽村）▼副委員長瀬尾哲太郎（旧大袋村）▼教育長秋山長作（蒲生中学校長）

なお新越谷町教育委員はつぎの諸氏であります

▼新井誠一郎（旧櫻井村）▼浅子信治郎（旧新方村）▼井上竹松（旧増林村）▼栗原茂（旧荻島村）▼浅見金一郎（旧蒲生村）▼斎藤茂右衛門（旧大相模村）▼関口馬次郎（旧越ケ谷町）▼浅野滋（旧大沢町）▼議会選出飯島右内（旧越ケ谷町）

大相模の不動さま
郷土の名勝・旧跡めぐり（一）

東武越谷駅前より吉川町行バスにゆられ、左手に越谷水郷瓦曾根堰枠を眺めること約十分で旧大相模村の有名な不動さまに到着崇重な感じの見上げる二王門の欄間には「眞大山不動坊」の額が掲げてあり、この寺院は正しくは眞大山大聖寺と呼ぶ、早速住職の加藤義詔師に開基由來について伺うことにいたしましよう

昔奈良時代（孝謙天皇の御代）天平勝宝年時の四聖の一人といわれた良弁僧正は、衆生教化のため諸国行脚の途中相州大山に宿つたとき、一夜枕辺に不動明王の尊像が現われ「吾、あとをこの世に垂れ悪魔を降伏し国家を鎮護せんとす、汝有縁の地を求めて吾が像を安置せよ」と告げられました

良弁僧正はこの霊夢にいたく感じ早速斎戒沐浴して明王の尊像を刻み自ら笈（おい）に安置してこれを背負いてたまたまこの郷に來り今の御座の松の根方に暫く憩むに笈が重くて挙げることができません、そこで僧正は「憐れ明王の尊意此の地にましませば自らこれを挙げることを得しめ給え」と念じたるところ不思議にもこの笈はあだかも風船の如く軽くなりました、そこで僧正はこの地こそ有縁の境滑利であることを知り、一宇を創立して尊像を安置、供養をいたしました、由來この宇を大相模眞大寺不動坊と称してきたのであります

天正十二年時の将軍徳川家康は、明王の霊験あらたかなるのに感嘆して「この尊こそ必ずや吾が一族を祈らん」と、同十九年十一月水田六十石を喜捨いたしました、そして寺号も大聖寺とすることを命じ、永く国家鎮護の寺とすることになつたのであります

後に別に尊坊六宇を設け、専ら武運長久家門安康を祈願いたしましたが慶長五年に史上有名な石田三成が近江（今の滋賀縣）に反旗をひるがえした時家康この寺に祈願した折この御堂が家鳴り震動（勝ち戦を告げた）したといい、又境内にある含満井（かつて一度も水の涸れたことのない井戸）などの由來記は霊験あらたかとして、今日でも世人に廣く宣傳されております

良弁僧正開基以來すでに一千数百余年、諸衆渇仰の的として、法燈際然と今日まで続き、縁日には近郷近在の善男善女の参詣引きもきらぬ有様を呈します

昔ながらの境内には数百株の梅林があり、早春の頃には世塵を避けた梅花の香を慕う杖を引く人の姿を沢山みかけるといわれます

豆まきは二月四日、入会式は九月の四、五の両日でその賑わいも想像され、ようやく暮色に包まれた境内にホウ・ホウと鳴く鳥の声に送られて筆者はお暇を告げました

（寫眞はその二王門）

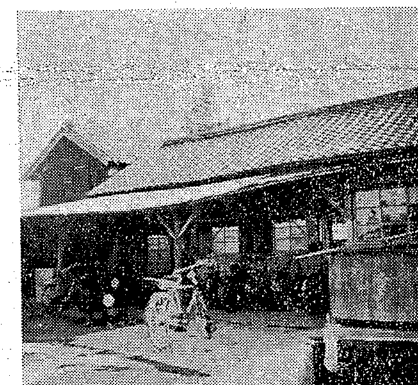
千代の山一行來る
越谷消防団で大相撲

（既報）新発足の町消防団では、團員の親睦を図る一助にと十二月二十六日、大沢中学校庭において東京角力横綱千代の山、鏡里、栃錦の一行を招き大角力会を催し盛大でありました

当町を視察
戸田町長一行

北足立郡戸田町長一行が來廳、戸田町では合併を目前にひかえ合併町村先進地区を視察しようと、町長以下一五名の合併研究会委員が十六日午前九時バスにて本廳に來廳、助役・総務課長等より本町の合併についての経過、計画資料などを聴取、午前十一時帰へられました

支所分室めぐり（その三）
元ふのり工場を利用
産業課 土木課 農林、土木事務扱う



産業課と土木課は大沢中学校構内にある元ふのり工場を利用し、堀井産業、小林土木の両課長さん指導のもと農林、商工、配給、土木建築の各係が執務しており、二課の職員ともなかなか窓口應待がよくいつも明るいむつまじい状景をていしております、産業課職員は八一〇名で執務し、土木課職員は八名によって執務しております

婦人会指導者講習会
大相模公民館で開催

大相模婦人会並びに婦人学級主催による婦人会指導者講習会は、二十三日大相模公民館において開催され、縣教育局埼葛出張所より樋口、秋葉両先生が出席、婦人会の指導者としての必要な教育を受講体験し、なごやかな一日を過しました

編集後記

◇—天高く、いななく駒の年！あるいは馬車うまのような年でないようにと願つた本年も、あと二三日でお別れ

◇—でもお互に、一年を無事に過したことを喜びあつて、悔ない二十九年を祝いつゝ、新春三十年を迎えましよう

◇—第四号で発行した廣報が、てんでご舞の総務課と連絡不十分だつたので、旧櫻井、旧大袋、旧大相模村の投票所、投票区の相違していた点、幾重にも関係区域の方へ、ご了承ねがいます

◇—更に国保療養担当医のうち袋山、東武病院（全科）武里七九一五、越ケ谷、出羽診療所（内・外・小）越谷三〇、千葉縣野田市、下重宗正（歯科）、以上三医が記入もれになつており、深くおわびいたします

◇—菊も枯れて木がらしが吹き初めると、いよいよ火災の天下となりました、いかに消防関係者が声をからして警告を発しても「火事は心のすきまから」やつてくるのでは、どうにも防ぎようの手がありません

◇—冷たい朝しもを見ると、そぞろ焚火の恋しさが増すのは当然のこと、ルンペンや子供のたいた火の後始末、不用意に投げたタバコのすいがらが恐ろしい火災を呼び一般の手を焼かせます

◇—新町発足の大世帯、お互に火事のない町に住むよう頑張り通しましよう

◇—廣報も、何やかやでおしがりを相当戴きましたが、新春からは馬力をかけ、頑張る心算です、どうぞご声援の程おねがい致し、この廣報を本年の最後版と致します

短歌

石垣昌義

知らぬまに幾月経しかサルビヤの散り初めたるミツバチのつ